

市史資料室だより

発行 秦野市教育委員会 生涯学習課文化財班（市史資料室）
TEL 0463-83-8380 FAX 0463-83-8381
E-mail sisi@city.hadano.kanagawa.jp

平成 22 年 6 月発行
第 3 号
〒 257-0042
秦野市寿町 3 番 12 号
（はだのこども館内）

『秦野 2010 - 未来に伝える秦野の姿-』 ただいま写真募集中！！

「写真」は、今の私たちの姿をありのままに未来に伝える大切な資料です。歴史を考える上で役立つ、情報量の多い優れたこの資料を確実に後世に伝えるため、秦野市では節目ごとに写真を収集し写真集にまとめてきました。

前作から 10 年の歳月を経た今年、市史資料室では、4 作目となる写真集『秦野 2010- 未来に伝える秦野の姿-』を作成中です。2010 年 1 月 1 日から撮影を開始し、6 月現在 3600 点以上の「2010 年の秦野」の写真が集まりました。市史資料室がおもに撮影を行っていますが、市民の皆さんからも募集中です。「行事」「まちなみ」「風景」「子どもたちの姿」などを撮影したもので、芸術性は問いません。応募された写真は、資料として市史資料室で大切に保存し、写真集『秦野 2010』や、秦野市で発行する刊行物などに掲載させていただく場合があります。写真の募集期間は 2011 年 1 月 20 日まで。応募の詳細は公民館など市内の公共施設にあるポスターやチラシ、市史資料室だより第 2 号をご覧ください。市史資料室にお気軽にお問い合わせください。



どんど焼き 西田原八幡神社 2010. 1. 14



雪の日の通学路 寺山・久保バス停付近 2010. 2. 18



秦野駅前通り商店街 まほろば大橋から 2010. 4. 18

*今回の市史資料室だよりには、東海大学文学部歴史学科の四年生、宇田川大介氏にご寄稿をいただきました。

地名から大根地区をながめる

東海大学文学部歴史学科四年 宇田川 大介

大根地区は秦野市東部にあり、時代により大住郡や中郡の大根村であった。大根地区の地名をひも解いてみると、この地区は地形に関する特徴的な地名を多く抱えていることがわかる。

まずは大字名である「北矢名」「南矢名」に含まれる「ヤナ」という地名から見てみよう。この「ヤナ」とは「ヤト（谷戸）」や「ヤツ（谷津）」などと同じく「丘陵地の谷間」を意味するとされている。また、天保四年に発行された『富士見十三州輿地全図』には北矢名・南矢名が「北矢名倉」「南矢名倉」と記載されている。「クラ」という言葉が「地形が切れて崖になっている場所」という意味だと言われていることを考慮すると「矢名倉」とは「崖になっている谷戸（の周辺地区）」の意味に解釈できる（ただし、富士見十三州輿地全図には誤記も多い為、矢名倉は単なる誤りだとする意見もある）。それを証明するように現在でも同地は急峻な地形が多く、一目見ただけで息が上がりそうな坂もある。



『富士見十三州輿地全図』部分



おちはた
落幡停留所

鶴巻地区に話を移すと、ここは秦野市と合併するまでは落幡と呼ばれていた。現在でも落幡神社やバス停の落幡停留所などに名を留めている。これは善波重氏が幡曼荼羅という妖怪の類を射落とした場所という説話が伝わっているが、実際は大服郷（平塚市岡崎にある大畑集落）より分村した「遠の大服」に因むといわれ、いわば鶴巻のルーツを表す地名である（また、善波重氏の説話には「弓の弦を巻いた所が鶴巻」「弓が引けなかった所が不弓引」というくだりもあり、鶴巻はもちろん不弓引も小字地名として現存している）。

この他にも鶴巻と岡崎の繋がりを思わせる地名に岡崎の「丸島」と鶴巻の「根丸島」がある。鶴巻の根丸島も古くは丸島と称していたが、根丸島と称するようになったのは区別の為に「丘の麓の丸島」という意味で



ねまるしま
根丸島付近の地形（鶴巻南五丁目）

根をつけたもの、あるいは「新しい丸島」の意味の「にいまるしま」の転訛と思われる。

次に、大根地区の地名の特徴に「塩」の付く地名が多いことが挙げられる。地区としては南北矢名・鶴巻に見られ、これは「この地区の湧水には塩分が多く含まれていることに由来している」と説明されることが多い。実際に同地が誇る温泉郷・鶴巻温泉は、飲料目的に井戸を掘ったが、非常に塩辛く渋みもあるがゆえ飲用には供せないために温泉としたことに始まる。しかし、私はもう一つの可能性として「しぼんだ地形」を意味する「シホ」に由来する説を唱えようと思う。具体的な地名の例は鶴巻にある塩久保（しぼんだ窪地）、塩貝（しぼんだ形の場所）、南北矢名にまたがっている塩河内（河川流域のしぼんだ形状の土地）などがある。

最後に、「烏啼」という地名について触れたい。南矢名にある東海大学近道商店街の急坂のあるところやその東側の平塚市真田のアパート街、そして南矢名一丁目あたりから鶴巻へ登って行く坂道の辺りはかつて烏啼と呼ばれていた。この烏啼という地名の由来は「カラ・ス」が「小高い・所」を意味し、「ナキ」が「切り立った場所」を意味する地形語であることから「小高く切り立った場所」という現在でも近道商店街側から見られる地形をもとに付けられた地名であると推測される。

この烏啼は、開発される前（昭和初期）の情景が、南矢名村出身の歌人・前田夕暮^{まえだゆうくれ}によって短歌として残されている。また、彼の随筆にはこの地に伴う事柄の記載もあるため、当時の烏啼の様子を探ることのできる貴重な資料ともなっている。短歌と随筆の一部を以下に紹介する。



からすなき や と 烏啼谷戸付近の地形（南矢名二丁目）

あかあかと昼日風ざたり低き岡の馬焼場あとの秋蕎麦の花

昔は馬が死ぬと土に埋めないで焼いた。私の村端れにこの馬を焼いた岡（小田原急行大根駅より約数町）があつた。其岡には細い道がうねってをり、茅花がいちめんほほけてゐた。其處に登つてみた「鴉啼き」といふ、岬のやうにせり立つた田圃向うの岡の、林の夕日の景色が子供心にも秋などは美しくもあり寂しくもあると思つた。「鴉啼き」の下に「清水」といふ冷たい水のわいてゐる窪地があつた。

私はたまたま帰つて、その馬焼き場がいつのまにか岡畑になり、秋蕎麦の花がしろじろと咲いてゐるのをみた。

—前田夕暮 著『前田夕暮全集 第四巻 散文Ⅱ』より昭和二年（四十五歳）の p.110 から抜粋

この他にも大根地区の地名はその歴史が垣間見えるものが多く、研究する上でも非常に有意義な実感がわくものが多かったことを最後に述べたいと思う。

活動紹介

ミニ資料展 秦野の絵図

平成 22 年 5 月 1 日（土）～未定

市史資料室入口通路（はだのこども館内）

市史資料室所蔵の江戸時代から明治期の絵図を展示

寛政 2 年（1790）作成の蓑毛宝蓮寺の絵図や天保 6 年（1835）作成の村絵図 4 点、また村同士の争いごとのさい作成された裁許^{さいきよ}絵図や宝永 4 年（1707）の富士山の噴火による災害時に作成された砂降り絵図など、絵図 16 点を紹介しています。



写真資料展 私たちの郷土（南地区編）

平成 22 年 6 月 1 日（火）～ 6 月 30 日（水）

南公民館 1 階ロビー

昭和 30 年頃に撮影された南地区の写真のパネル展示

当時の小田急線大秦野駅前や南小学校、南地区のまちなみや自然の風景、農業・工業の様子を撮影した写真パネル 24 点を展示しています。



市史資料室には、皆さんのちょっとした疑問に答えてくれる、秦野の歴史や自然に関する本をはじめ、神奈川県史や県内・県外の自治体史などが数多く揃っています。本の閲覧や貸し出し、秦野市史刊行物の販売などを行っています。郷土史の研究や夏休みの自由研究など、どうぞお気軽にご利用ください。



資料室のひとコマ

6 月 4 日、末広小学校の 2 年生の施設見学がありました。
古文書や昔の教科書に興味津々のこどもたちでした。

